

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (16)

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。それらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、彼らの言説の誤りを総合的に理解し把握するためには、「真の父母様宣布文サイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をごらんください。

本文中、真の父母様のみ言や「原理講論」等は「青色」で、サンクチュアリ教会や郭グループ側の主張は「茶色」で色分けしています。

【29】アブラハム、イサク、ヤコブの論理の悪用について

再臨主に、次の代への延長

この言説と類似する主張をしているのが、郭グループです。二〇一四年六月十八日、神山威氏(故人)は、郭グループ側が釜山で行った集会で、次のように語りました。

当連載の第一回で取り扱った問題として、「アブラハム、イサク、ヤコブ路程を歩むのが真のお父様である。その後、ヨセフ路程を歩むのが亨進様であり、さらにエフライム路程を歩むのが信俊様であることが、神によって予定されている」という

「基元節は、何をしなければならなかったのか。……神様の結婚式がなされなければならなかった。お父様が蘇生、長成、完成、最後の神様の結婚式を、真のお父様がどんなにその時を待ったと思います?……基元節は一月十三日と言いましたよ。」

サンクチュアリ教会側の言説の誤りがありました。

神山氏は、真のお父様は使命を全うできずに聖和された結論づけ、ちょうどアブラハムの象徴献祭の失敗によって、神の復帰摂理がアブラハム、イサク、ヤコブへと延長されたように、現代でも、摂理が真のお父様、子女様、お孫様へと延長されるのだと主張します。

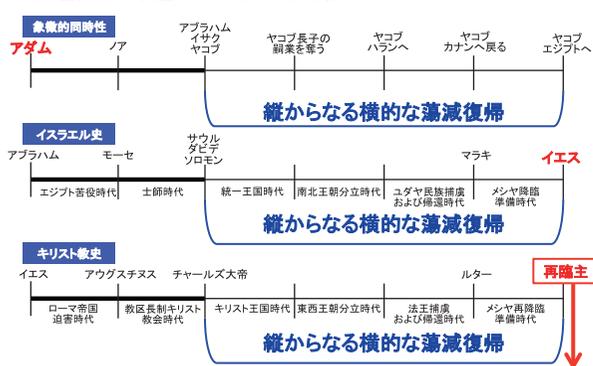
「再臨主はいつか来る」という期間が……摂理的なある期間が過ぎたのちでなければ、メシヤの降臨はないということを見せてくださった(二〇八〇〜三〇九ページ)とあるように、メシヤが勝利できないときは、摂理を直ちにやり直すことはできません。

また、イスラエル史と同様に、キリスト教史でも、『原理講論』に「チャールズ大帝が、この基台の上で、キリストのみ言を信奉し、キリスト教理想を実現していったならば……『再臨されるメシヤのための基台』も、成されるはずであったのである。もし、このようになったならば……その基台の上にイエスが再び来られて、メシヤ王国をつくることのできた(四七五〜四七六ページ)とあるように、再臨主はそのとき来ていました。しかし、「国王が神のみ言を信奉し得ず、『実体献祭』をするための位置を離れてしまったので、実体基台は造成されず、し

……しかし、お父様は待ちに待ったその日を迎えられず、霊界に行かれました。どんなに無念だったと思います?……アブラハムが、縦的な歴史の失敗を象徴献祭で蕩滅することにより、旧約時代の出発がなされなければならなかったが、それが失敗した。それを横的に蕩滅するため、アブラハム、イサク、ヤコブと横的に(摂理が)延長された。……それと同じように、真のお父様、次のお子様、そして三代まで。一代、二代、三代で神の家庭、本当の意味での基元節を迎えなければならぬと、私は考えております」

したがって、『再臨されるメシヤのための基台』もつくれ(四七六ページ)と、摂理はアブラハムのとおり同様、延長されて現代に至ってしまったのです。ゆえに、キリスト教史においても、チャールズ大帝以降の歴史は「縦からなる横的な蕩滅復帰」の歴史であり、これ以上、延長できない状況で再臨主を迎えている事実を知らなければなりません。そして、仮に、真のお父様が勝利できなかった場合、その摂理を直ちにやり直すことはできません。すなわち、アブラハム、イサク、ヤコブの摂理のように、真のお父様、子女様、お孫様へと延長することはできないのです。にもかかわらず、サンクチュアリ教会や郭グループのように摂理を「延長できる」と考えるのは、「原理」から逸脱した非原理的言説です。

摂理的同時性の時代の対照表



これ以上摂理は延長できない

これと同様、イスラエル史でも、サウル王のとき「イスラエルの選民たちが、サウル王を中心とするその『信仰基台』の上で、神殿を信奉していくこの国王を絶対的に信じ従ったならば、彼らは『実体基台』を造成して『メシヤのための基台』をつくり得たはずであった(『原理講論』四七四ページ)とあるように、その基台の上でメシヤを迎えて

えていました。しかし、サウル王の不信で「摂理は成し遂げられずに、アブラハムのとおり同様、蕩滅復帰期間として復帰するため、統一王国時代一二〇年、南北王朝分立時代四〇〇年、イスラエル民族の捕虜および帰還時代二一〇年、メシヤ降臨準備時代四〇〇年を立てて、初めてメシヤを迎えるようになった(四七五〜四七六ページ)というのです。ゆえに、イスラエル史におけるサウル王以降の歴史は「縦からなる横的な蕩滅復帰」の歴史であり、これ以上、延長できない状況でイエス様を迎えている事実を知らなければなりません。そして、「ユダヤ人たちが……彼らの責任を果たさなければならぬ。……十字架で死なれて、第三のアダムとして再臨されなければならない……(ノアの鳩の摂理に)記録され

したがって、『再臨されるメシヤのための基台』もつくれ(四七六ページ)と、摂理はアブラハムのとおり同様、延長されて現代に至ってしまったのです。ゆえに、キリスト教史においても、チャールズ大帝以降の歴史は「縦からなる横的な蕩滅復帰」の歴史であり、これ以上、延長できない状況で再臨主を迎えている事実を知らなければなりません。そして、仮に、真のお父様が勝利できなかった場合、その摂理を直ちにやり直すことはできません。すなわち、アブラハム、イサク、ヤコブの摂理のように、真のお父様、子女様、お孫様へと延長することはできないのです。にもかかわらず、サンクチュアリ教会や郭グループのように摂理を「延長できる」と考えるのは、「原理」から逸脱した非原理的言説です。

に、復帰摂理の目的を完遂できないで、亡くなられるというこ
とはない。その理由は、神が人
類の真の父母を立てることに
よって、創造目的を完遂なさる
うとする摂理は、アダムからイ
エスを経て再臨主に至るまで三
度を数え、……再臨のときには、
必ず、その摂理が成就されるよ
うになっている」(四二八ペー
ジ)と論じており、再臨主の摂
理においては、これ以上、延長
があつてはならないのです。

このような「原理」を熟知し
ておられる真のお父様は、「偽
りの父母から血肉を受け継ぐこ
とによって、亡国の環境となつ
てしまったサタン世界の霊界と
肉界を……修理すべき責任を
持った『真の父母』という人が
来て、神様のように数千年間か
けて役事するのではありません
ん。アダムが一代で完成するこ
とができなかったので、(先生)
一代で解決しなければなりません。
ですから、それは、どれほ

ど途方もないことでしょうか?」
『ファミリー』二〇〇一年六月
号、九ページ)、「歴史を一代で
解決しなければなりません。一
代ですのです。分かりませ
か? 何代ではありません。先
生一代で解決しなければなりま
せん。アダム家庭が、一代で勝
利できなかったことを歴史的に
総蕩滅して、先生一代で整備し
なければならぬのです」(同、
一三ページ)と深刻に語ってお
られるのです。

それゆえ、真のお父様はみ旨
を必ず成就しようと、不眠不
休で生涯を走り抜けられ、「歴
史的に総蕩滅」した勝利を打ち
立てられたがゆえに、二〇一二
年八月十三日、「すべて成し遂
げました」(天一国経典『天聖
經』一六四五ページ)と最後の
祈禱をしておられるのです。こ
の「すべて成し遂げました」は、
ご自身の生涯と復帰歴史全体を
総括する歴史的宣言であること
を知らなければなりません。

にもかかわらず、真のお父様
が、未完のメシヤであるかの
ように論じ、お父様をそのよう
にさせた元凶は真のお母様であ
るかのように批判することは、
人類歴史上、かつてなかった最
大・最悪の「不信」であると言
わざるをえません。

サンクチュアリ教会や郭グ
ループ側の人々は、真のお父様
が「真の父母」としての勝利基
準を立てられずに聖和されたと
考えています。お父様が「すべ
て成し遂げました」と語ってお
られるように、お父様は勝利を
して聖和されたと応答しても、
それをかたくなにはねのけ、「い
や、子女様はこう語っておられ
る」と子女様の言葉のほうを優
先して、自分たちの主張を一切
曲げようとはしません。

真のお父様は、世界平和統一
家庭連合時代は「長子と次子は
母親の名のもとに絶対服従しな
ければならないのです。服従す
るようになれば父と連結します」

〔主要儀式と宣布式Ⅲ〕一五一
ページ)と命じておられます。

この真のお父様のみ言を軽ん
じられる子女様を擁護する彼ら
の心の根底には、真の父母の勝
利圏を否定している子女様(郭
グループは顕進様、サンクチュ
アリ教会は亨進様)の「不信」
を正当化し、子女様の今の立場
を擁護せんとする非原理的な動
機が、意識しようがしまいが、
あるからにはかなりません。私
たちは、このような不信と「不
純な動機」による非原理的な行
動を、一掃しなければなりません。

〔30〕「第二代王」を名乗ることは、
「万王の王」に対する逆行行為

二〇一二年四月十四日、真の
お父様はラスベガスの天和宮で
「特別宣布式」をされ、「文鮮
明」韓鶴子という二人の人が、
堕落が存在しないエデンの園に
あつて、「善悪の果を食べたら、
死ぬであろう」と言われた、そ
れ以前の位置に返った」と宣布

されました。

真のお父様は七日後の四月二
十一日、韓国で「天地人真の父
母様特別集会」を開催され、そ
こで次のように語られました。

『「天地人真の父母定着完了」
が、この本(講演文)の題名で
す。天地人が真の父母となつて
定着する教材・教本だというの
です。……あなた方も批評をせ
ず、『この言葉どおりに一度生
きてみたい』と考える人が、福
を受けて生きることができると
です。……創造主の資格をもつ

て、最後に万王の王と父母の先
祖の中の先祖となり得る勝利の
覇権の栄光の宝座に座る人は、
億千万代においてただ一つの夫
婦であつて、二つはいません。
夫婦が二つですか、一つですか。
万国の王たち、偽者たちがなぜ
こんなに多いのですか。万王の
王はお一方です。」「女性尊重時
代が来ます。お母様を中心とし
て、ひっくり返るのです。男女
が同等で対等の価値の実権をつ

くるのです」(「KMS中和新
聞」二〇一二年四月二十七日号)

真のお父様は、「栄光の宝座
に座る人は、億千万代におい
ただ一つの夫婦であつて、二つ
はいません。……万王の王はお
一方です」と語られ、天一国に
おける「万王の王」はお一方で
あることを明らかにされました。
しかも、それは「億千万代にお
いてただ一つの夫婦」であると
言われるのです。

サンクチュアリ教会では二〇
一五年八月三十日(聖和三周年
記念)、「第二代王権戴冠式」を
挙行し、それ以来、彼らは亨進
様を「第二代王」と呼んでいま
す。真のお父様が「栄光の宝座
に座る人は、億千万代において
ただ一つの夫婦であつて、二つ
はいません。」「万王の王はお一
方です」と宣言しておられたに
もかわらず、「第二代王」を
名乗ることは、真のお父様に対
する逆行行為にほかなりません。
このような彼らのかつてなふる

まいは、彼らが真のお父様を本
質的には信じていないことを明
らかにしているのです。

〔31〕「お母様は肉的堕落をした」
という批判への応答

サンクチュアリ教会は、真の
お父様が二〇〇九年七月十四日
に語られた「オンマが堕落した
ので、復帰することをオンマが
しなければなりません」という
み言をもって、「真のお母様は
肉的堕落をした」と解釈します。
これは、真のお母様をおとしめ
ようとする、み言の悪用です。

このみ言は、真のお父様が、
「母(エバ)が堕落したので、
復帰することを母(女性)がし
なければなりません」という意
味で語っておられるものになら
ません。

真のお父様は二〇〇九年四月
十一日、「ラスベガスで今や九
十七パーセントまで越え、三
パーセント残った峠を越えるこ
とができます」と語っておられ

ます。そして二〇一〇年六月、

「最終一体」を宣言されました。
その前年、九十七パーセントま
で越えたと語っておられ、二〇
一〇年六月十九日(天曆五月八
日)と同年六月二十六日(天曆
五月十五日)に「最終一体」を
宣布されました。その途中の期
間である二〇〇九年七月十四
日、もし真のお母様が肉的堕落
をされたなら、それは取り返し
のつかない問題であり、その時
点でお母様は「真の母」の資格
を失ったことを意味します。そ
のような事件が起こった立場の
まま、二〇一〇年六月、「最終

一体」を宣布され、その勝利を
知らせるために世界巡回講演を
されることはありません。

サンクチュアリ教会側は、エ
デンの園で「母(エバ)が堕落
した」という意味で語られたみ
言をゆがめて解釈し、真のお母
様をおとしめようとしているの
です。このようなみ言の悪用に
惑わされてはなりません。